

支所の次は学校!?! 小中学校の大規模な統廃合を検討

「義務教育学校をご存じですか？」小中学校の9年間のカリキュラムを一つの学校で学ぶ新しいスタイルの教育です。すでに阿寒湖では小学校・中学校を統合しました。

教育委員会は子どもの数が減っていることなどから、義務教育学校をふくめた大規模な小中学校の再編を検討しています。

義務教育学校を6校新設 大楽毛、阿寒、音別も

再編の一つは小中学校を統合する義務教育学校です。下のところに書いたように、大楽毛、音別、桜ヶ丘、阿寒、美原、春採中学校の校区が義務教育学校になります。

小学校の統合も

鳥取小・新陽小も合併対象

もうひとつは、小学校同士の合併・統合です。釧路小と城山小、鳥取小と新陽小を統合します。また、湖畔小、武佐小、清明小（武佐・緑ヶ岡地域）は、3校を2校に再編します。

学校の再編にあわせ、同じ小学校に通う子が全員、同じ中学校に上がるようにするため、通学区域の見直しも予定されています。

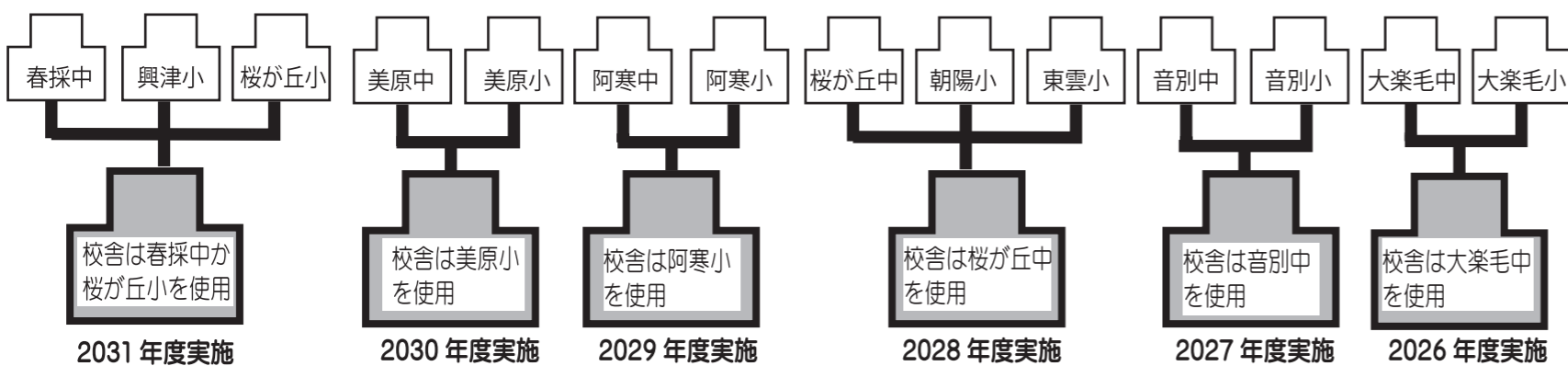
いずれも学校そのものが減りますので、統合されると使われなくなる学校、学校がなくなる地域が相当数出てくることになります。

一番心配されるのは、子どもたちが、これまでと比べられないほど長距離通学になることです。

対象となった地域は、支所廃止が提案されている「大楽毛・春採、桜ヶ岡」がすべて含まれ、鳥取支所分室（コアかがやきに併設）に近い美原も含まれています。「支所も学校もなくなるのか」との声も上がっています。

義務教育学校って？

義務教育学校も小学校1年生から中学校3年生まで、同じ校舎で学ぶことの心配があります。体育館



義務教育学校新設

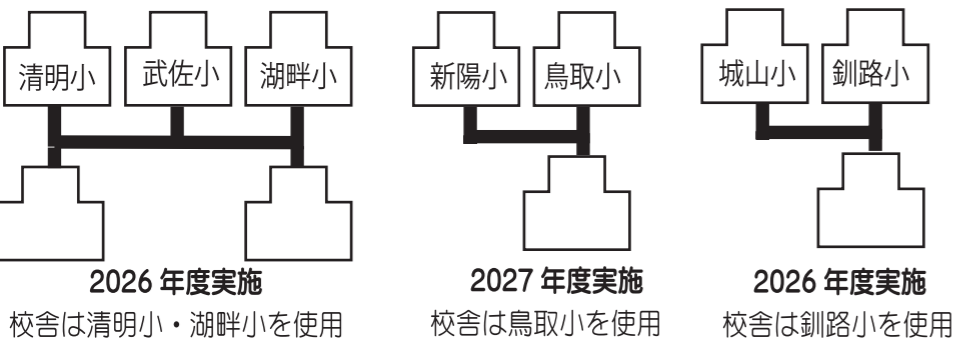
は一つしかありませんから、昼休み時間や放課後、中学生がバスケットをしている横で、小学校低学年が鬼ごっこすることになります。安全といえる？

小学校6年生の最高学年としての自覚と責任が弱まることへの弊害も指摘されています。

中学生になり教員が学級担任制から教科担任制になる、本格的な部活動も始まるなど、小学校とは学校生活が大きく変わります。この時期に学校への不適応が起りやすいというのが「中一ギャップ」です。

しかし、思春期に達した年齢の子には、発達段階として、こうした「飛躍の時期」が必要です。過度のストレスは問題ですが、この飛躍が、大人への成長の確かな土台になるからです。

大事なのは、このハードルをすべての子どもが上手に越えていけるよう、しっかりと子どもを支えることです。



小学校の統合



2022. 6. 19
村上かずしげ通信
発行 共産党議員団

その意味でも、教員数を減らす義務教育学校ではなく、先生の数を増やす「少人数学級」こそすすめるべきです。